

輸入麦の政府売渡価格について

(価格公表添付資料)

平成 2 5 年 8 月

農林水産省

目次

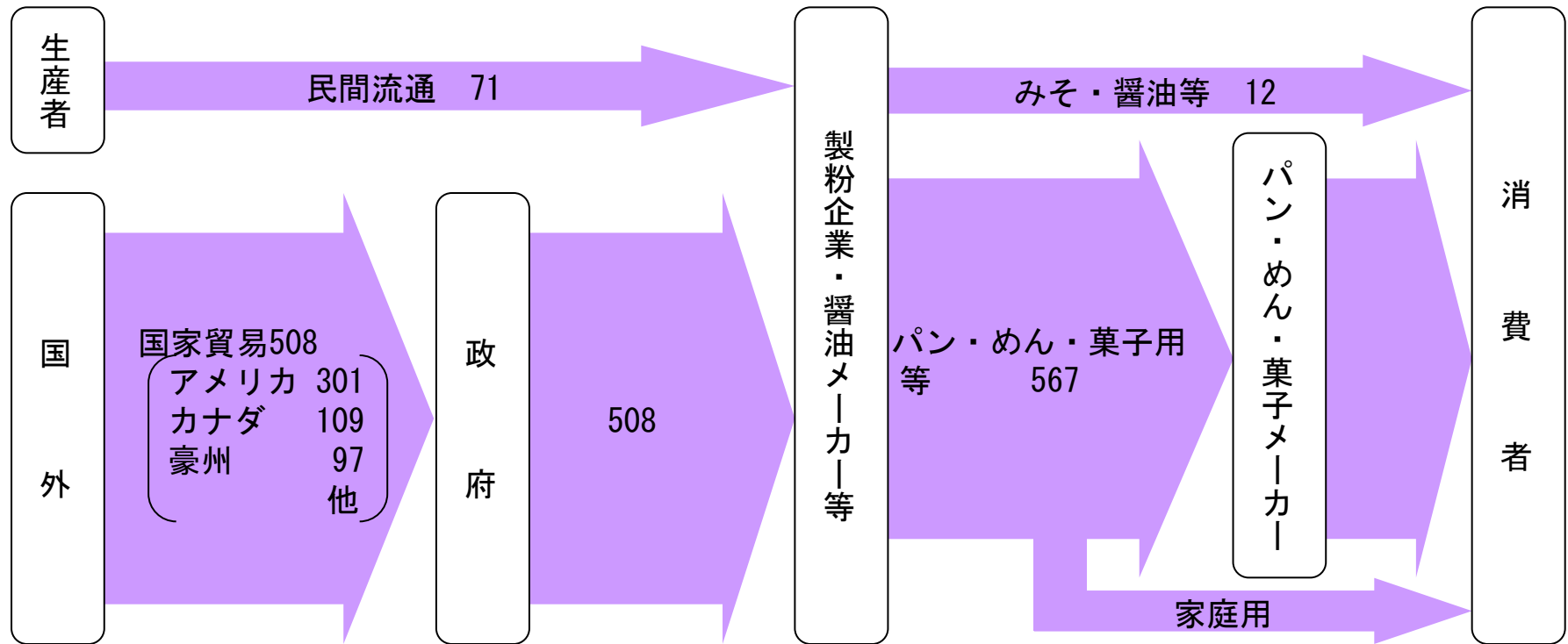
・ 小麦の流通の概要	1
・ 小麦の種類と用途	2
・ 現行の輸入麦の売渡制度	3
・ 穀物の国際価格（シカゴ相場）の推移（平成18年4月～25年8月）	4
・ 小麦の日本向け輸出価格の推移	5
・ 海上運賃の動向	6
・ 為替の動向	7
・ 輸入小麦の政府売渡価格の推移	8
・ （参考）物価・家計への影響	9
・ （参考）輸入麦及び麦製品の安定供給確保のための取組	10

小麦の流通の概要

- 麦は需要量の約9割を外国産麦の輸入で賄っている。国内産麦は民間流通により取引されており、外国産麦は政府が国家貿易により一元的に輸入し、需要者に売り渡している。
- また、米とは異なり、最終的にパンやめんとして消費するために、流通過程において各種の加工工程を経ている。
- 小麦は、主に製粉企業が製粉して小麦粉にし、その小麦粉を原料として二次加工メーカーがパン・めん・菓子などを製造している。

小麦の流通の現状（食糧用）

（単位：万トン）







注 流通量は過去5年（H20～H24）の平均数量である。

小麦の種類と用途

- 原料として使用される小麦の種類は、小麦粉の種類・用途に応じて異なる。
- 小麦粉の種類はたんぱく質の量によって強力粉（パン用）、準強力粉（中華めん）、中力粉（うどん用）、薄力粉（菓子用）に分類される。

外国産小麦の銘柄	カナダ産ウェスタン・レッド・スプリング (1CW)	アメリカ産ダーク・ノーザン・スプリング (DNS)	アメリカ産ハード・レッド・ウィンター (HRW)	オーストラリア産スタンダード・ホワイト (ASW)	アメリカ産ウェスタン・ホワイト (WW)
輸入数量	87万トン	138万トン	85万トン	86万トン	78万トン

小麦粉の種類	強力粉	準強力粉	中力粉	薄力粉
主な用途	食パン 	中華めん ギョウザの皮 	うどん、即席めん ビスケット、和菓子 	カステラ、ケーキ 和菓子、天ぷら粉 ビスケット 
たんぱく質の含有量	11.5~13.0%	10.5~12.5%	7.5~10.5%	6.5~9.0%

国内産小麦の種類	パン用品種	中華めん用品種	日本めん用品種
供給量 (24年産)	6.8万トン (8.4%)	0.7万トン (0.9%)	73.8万トン (90.7%)
81.3万トン	北海道ゆめちから (0.4万トン)	福岡ちくしW2号【ラー麦】 (0.3万トン)	香川さぬきの夢 (0.4万トン)

(注) 輸入数量は、過去5年 (H20~H24年度) の平均数量である。

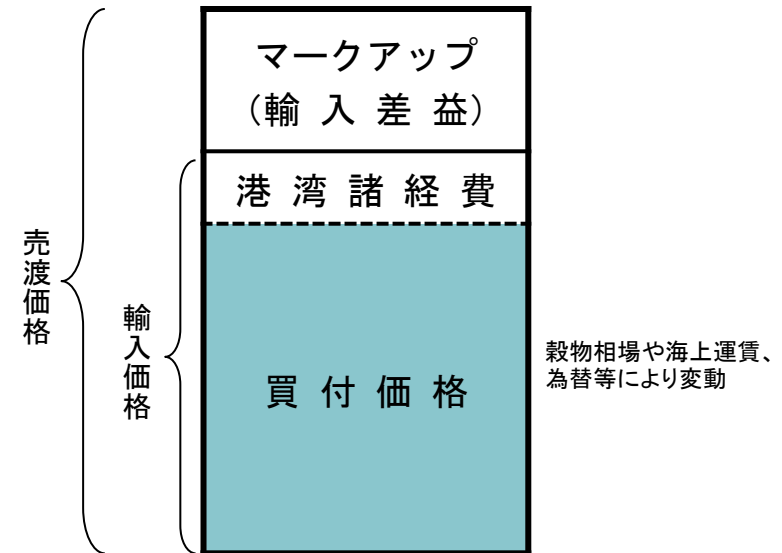
現行の輸入麦の売渡制度

- 平成19年4月からの輸入麦の政府売渡価格は、輸入価格（過去の一定期間における輸入価格の平均値）に、マークアップ（政府管理経費及び国内産麦の生産振興対策に充当）を上乗せした価格。
- 国際相場の変動の影響を緩和するため、価格改定は当面年2回とするとともに、過去6か月間の平均買付価格をベースに算定。

○ 政府売渡価格改定ルール

項目	基本的なルール
年間価格改定回数	原則は年3回、当面年2回（2月、8月に決定・公表）
買付価格算定時期	直近6か月間 〔 今回の改定に当たっては、平成25年3月から8月までの政府輸入価格を基に算定。 〕

○ 政府売渡価格の構成

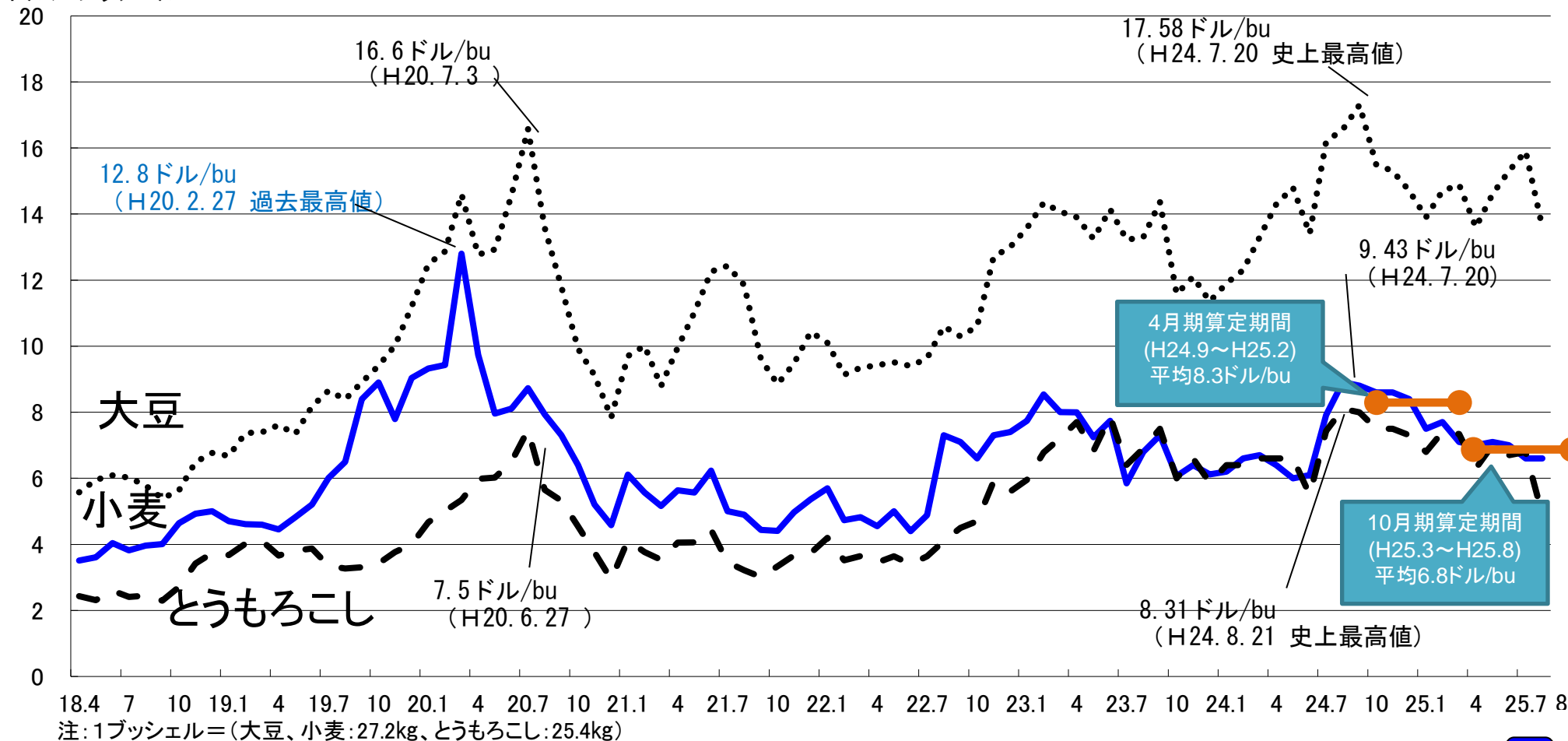


穀物の国際価格(シカゴ相場)の推移(平成18年4月～25年8月)

- シカゴ商品取引所における小麦相場は、昨年6月以降、米国の高温・乾燥による作柄悪化懸念を背景に上昇した大豆、とうもろこしに連動し、7月に4年ぶりの高値を記録。その後11月頃まで高水準で推移。
- 最近では、米国産冬小麦の順調な収穫などにより、小麦相場は落ち着きを見せている。

穀物の国際価格(シカゴ相場)の推移(平成18年4月～25年8月)

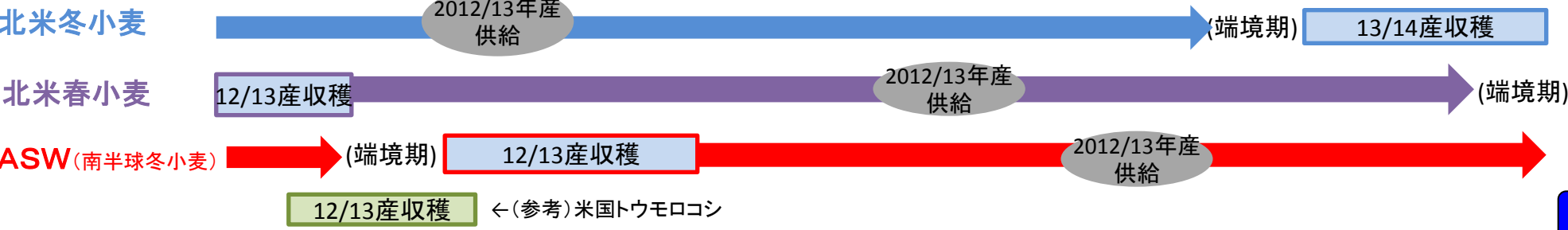
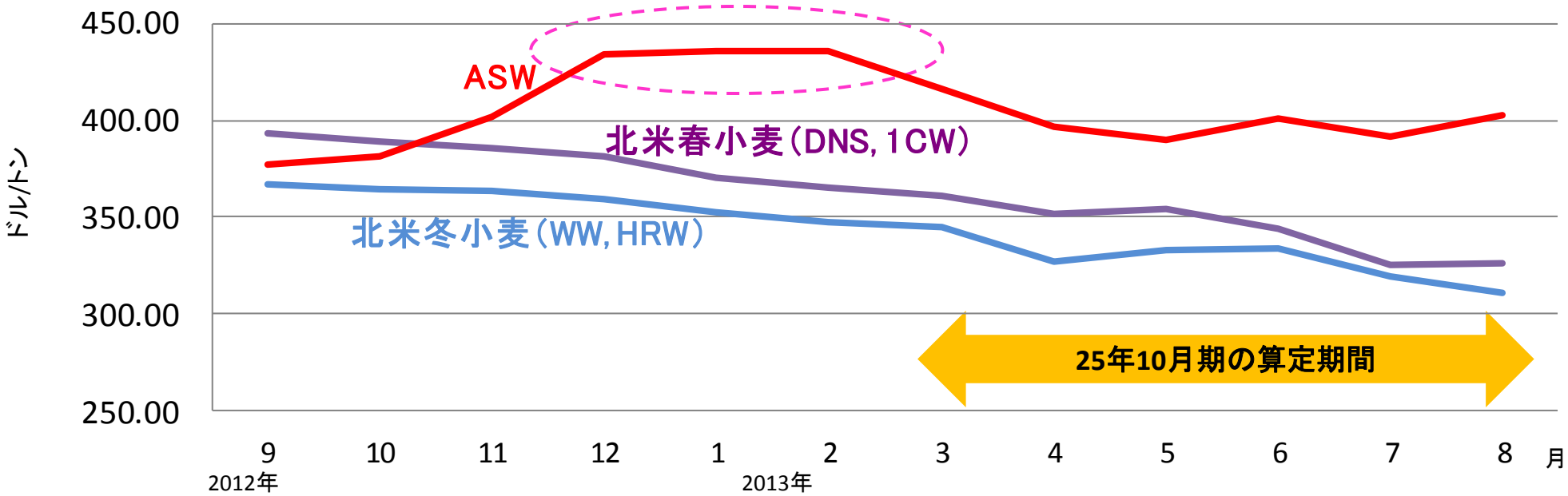
ドル/ブッシェル



小麦の日本向け輸出価格の推移

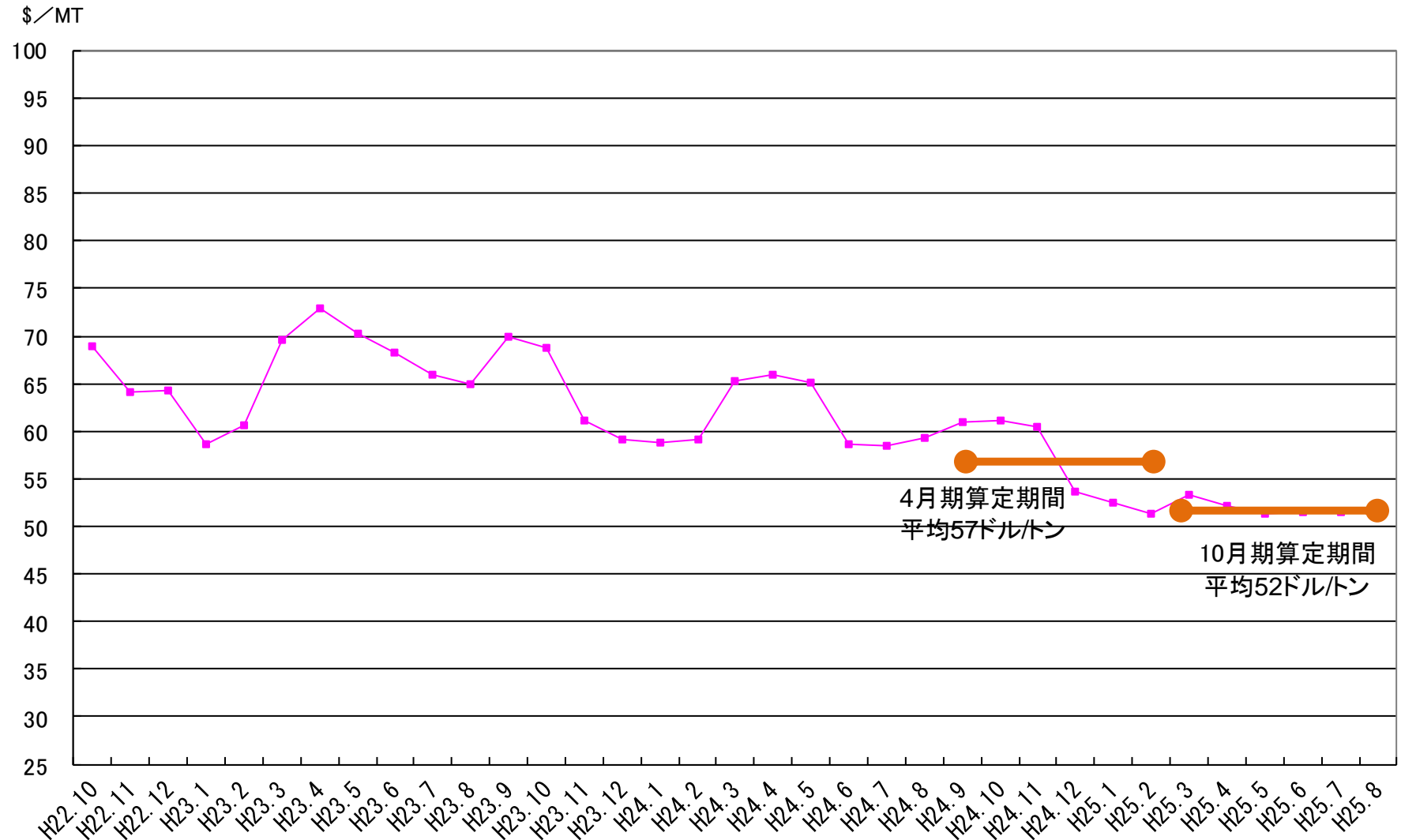
- 小麦の国際相場は、昨年6月～8月に高騰したトウモロコシ価格の下落に追随しつつ、世界全体の生産量が史上最高となる見込みや、米国産冬小麦の収穫の進展等から下落傾向にある。
- ただし、豪州では西豪州の少雨により生産量が減少したことから昨年10月以降ASWの日本向け輸出価格が上昇（下図点線囲）し、下落傾向にあるものの北米産小麦よりも高値で推移している。

○ 小麦の日本向け輸出価格の推移



海上運賃の動向

○ 海上運賃は、昨年10月以降、中国の景気が減速したため、中国向け輸出貨物の減少に伴う船舶需給の緩和等により下落し、その後は安定的に推移している。



注：2万トン級のフレート(WORLD MARITIME ANALYSISより)

為替の動向

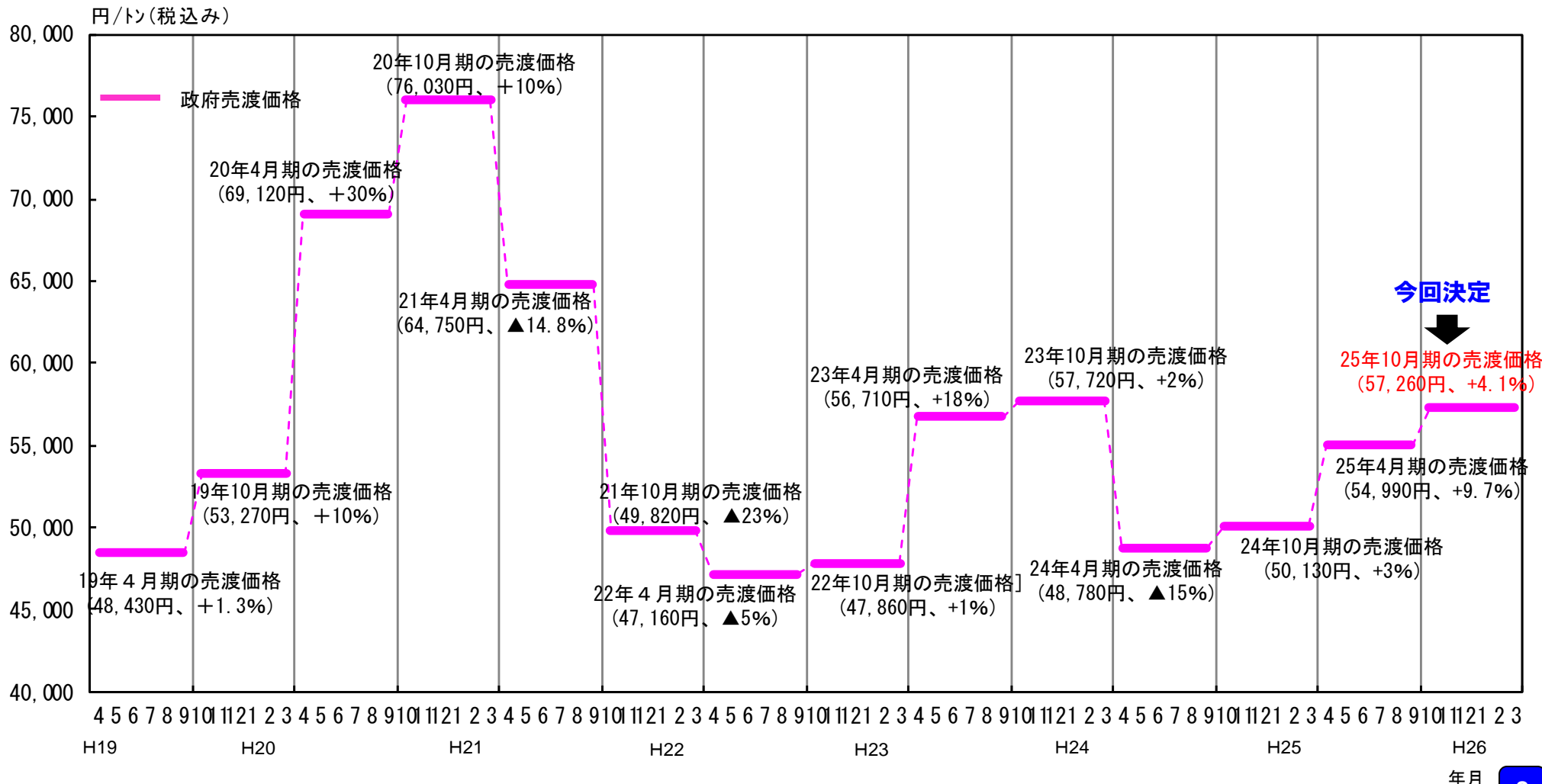
○ 為替は、平成21年以降円高傾向が続いていたが、昨年末から円安基調に転じ、ここ数ヶ月では100円／ドル前後で推移している。



注：対米ドル 直物為替TTS (Telegraphic Transfer Selling Rate : 対顧客電信売)

輸入小麦の政府売渡価格の推移

- 輸入小麦の政府売渡価格は、穀物の国際相場や、海上運賃、為替等の動向が反映された輸入価格に伴い、変動。
- 平成25年10月期（平成25年10月～平成26年3月）の輸入小麦の政府売渡価格については、平成25年3月から8月の輸入価格に基づき算定。



(参考)物価・家計への影響

○ パンや麺などの小麦粉関連製品の小売価格に占める割合はそれほど大きくなく、今回の政府売渡価格の引上げが消費生活に与える影響は極めて限定的。

○ 25年10月期の政府売渡価格の改定が消費者物価指数に与える影響（試算）

+0.004% 程度

※ 今回の政府売渡価格の引上げ分が全て小売価格に反映された場合を機械的に試算。

○ 小麦粉製品の影響額試算

	(※1 小売価格)	(※2 改定による影響額(試算))
うどん(外食)	590円/1杯	→ 0.4円/1杯
食パン(小売)	168円/1斤	→ 0.3円/1斤
小麦粉(家庭用小袋)	227円/1kg	→ 4.1円/1kg

※1: 小売価格は、総務省「小売物価統調査」(東京都区部、25年7月)による。
※2: 小麦粉製品ごとの原料小麦割合、原料小麦の価格改定率により機械的に試算。
※3: 食パン1斤は400gとして試算。

○ 政府売渡価格の改定と製粉企業的小麦粉価格の改定時期

【製粉企業的小麦粉価格改定時期】

各事業者の原材料の在庫状況等により異なるが、過去の例からすると、約3か月後の本年12月下旬以降。

(参考) 直近の改定事例(平成25年4月期)
平成25年4月1日より適用
→平成25年6月20日に小麦粉価格の改定(約3ヵ月後)

(参考試算)

小麦関連製品の小売価格に占める原料小麦代金の割合

① 中華そば(外食)	1%
② 食パン	7%
③ 即席中華めん	2%
④ ゆでうどん	9%
⑤ 小麦粉(家庭用小袋)	29%

注1: 数値は、東京都区部の小売価格(25年7月、総務省「小売物価統計」)に占める割合(試算値)。

注2: 消費者物価指数における消費支出額割合の多いものから記載。

(参考)輸入麦及び麦製品の安定供給確保のための取組

- 農林水産省としては、消費者等に対し、輸入麦の政府売渡価格改定の背景等に関する正確な情報提供に努めるとともに、農林水産省内の専門の相談窓口を活用し、各種相談を受け付ける。
- また、農林水産省の出先機関が、食パンや小麦粉等小麦製品の店頭価格の動向把握に努める。

○ 相談窓口の設置

輸入麦の安定供給に資するよう、農林水産省内に相談窓口を設置。

<設置場所>

農林水産省 生産局 農産部 貿易業務課内

<設置日>

平成20年10月(25年2月にメールでの相談に対する専用のインターネット窓口を整備)

<相談内容>

- ① 国際相場の動向や価格改定理由の説明、関連資料の提供
- ② 小麦関連製品に係る小売価格に関する相談
- ③ 原料小麦の安定供給の確保に関する相談 等

○ 小麦製品の店頭価格把握

農林水産省の出先機関が、小麦製品の店頭価格の動向把握に努める。

<主体>

農林水産省職員

<対象店舗>

全国470店舗

<把握内容>

大手メーカーが全国規模で販売展開する銘柄の食パン、即席カップめん、ゆでうどん及び家庭用小麦粉の店頭価格

相談
窓口

<https://www.contact.maff.go.jp/maff/form/7f7b.html>